

「語いもんそ」

Vol.8 平成20年12月14日発行

森村誠一氏による「写真俳句講座」

11月1日(土)

かごしま県民交流センター 中ホールにて

写真と俳句を組み合わせた新しい表現世界を、森村誠一先生のやさしい手ほどきで学ぶ講座で、ホールは受講者でいっぱいになりました。

先生から、俳句はエンターテイメント、楽しんで作り、世界最短の5・7・5の装置を使い、言葉のエッセンスと要素だけを短縮してつくるもの。決して難行・苦行・義務感ではつくらない。写真を付けることにより、抽象的なものに具体性がでてくる。

写真を撮ると情報量が豊かになり、原資の豊かな俳句ができると最初に説明がありました。

事前に提出された作品から選ばれた18作品について森村誠一先生から、わかり易く解説があり、盛り上がった講評になりました。



休憩後、当日準備された写真6枚をみて、受講者全員が実作に入りました。

実作のポイントとして、森村先生から

写真の説明にしないこと。

季語が重複しないこと。

俳句の中心テーマは何か。

の注意点を受け全員が実作に入りました。



時間の都合により、それぞれの写真について、1作を事務局がランダムに選び、森村先生から講評がありましたので、一部を紹介します。

鹿屋東中3年 清水雄哉さんの作品

「ひと信号、待たず渡りて、笛の音」

実作3の作品。

朝の横断歩道におまわりさんがいる写真。

受講者の、南 睦美さんの作品

「りんとして、つぼみ競えば、明日も晴れ」

実作6の作品。

「この花咲くや姫」の練習風景。

森村誠一先生の作品

「今日の歌、明日はいずこに、開く花」



今回の受講者で最年少の清水雄哉さんは、俳句を始めたのが1年前で、キッカケは自分でもわからないそうです。今回の受講は、10月17日付南日本新聞の「若い目」に、俳句に関しての清水雄哉さんの投稿記事を目にした、宝山ホール企画事業課の上久保さんが、清水雄哉さんの「俳句を若い世代に伝えたいと思いました」という志の高さに感動し、鹿屋東中を通して、森村先生の講演は、貴重な講座で、清水さんの俳句作りへの一助となればと案内したのが、今回受講のキッカケになりました。

清水雄哉さんにインタビューしました。

「森村先生の講演をお聞きするのはもちろん初めて。とても興味深くまた写真俳句の素晴らしさを教えられました。僕は俳句を始めて1年ですが、この講演を機に、写真俳句も始めようと思います。また機会があれば森村先生の講演をお聞きしたいです、今回の講演にさそって下さった宝山ホールの上久保さんには感謝しています」森村先生のサイン会でも、これからも頑張ってくださいと声を掛けられ、明るく元気な声で返事する清水さん。礼儀正しく、その明るさがとても印象に残る青年でした。



(撮影・記事 広報ボランティア 四十住孝行)

受講者にインタビューしました。

村山百夏さん(鹿児島市内大明丘)

「宝山ホールミュージッククラブの会員ですので、会報で今回の講座を知りました」

高校時代、森村先生のご息子と同級生だった、村山さんは、「この講座で楽しく写真俳句を学び、今より少しでも上手くなりたいと思います」と講座への意気込みをお話して下さいました。

是枝昭子さん(鹿児島市谷山)

『市民の広場』で講座を知りました。

「友人は色々な趣味を持っていますが、私も今からでも遅くはない、自分にも写真俳句はできそうだなと思い受講しました」と語ってくださり、新しい趣味の発見という、大きな成果をお持ち帰りいただきました。(取材 広報ボランティア 鮫島 尚武)

「秋の夕べ・かがり火コンサート」

11月3日(月・祝日)

かごしま県民交流センター(前庭)県政記念公園

プログラムはメゾソプラノとピアノ演奏に始まり、鹿児島固有の楽器「天吹」・薩摩琵琶の演奏、サキソフォンアンドピアノトリオ、シャンソンのジャンルで夜空に響く歌や演奏が披露され、約400名のお客様は一流奏者の生演奏に魅了されました。

お客様にインタビューしました。

林 八美さん(鹿児島市花野光が丘)

「コンサートには、初回から来ています、音楽が好きでいろんなコンサートのスタイルをみたい、仕事のにも興味があります」要望として「フォークやポップス系などギターで演奏できるものもあるといいですね」と感想を話して下さいました。

(取材 広報ボランティア 吉永 久夫)

この日は夕方から小雨が降り続く空模様になりましたので、宝山ホールの職員の方々が急遽テントを張ってのステージ作り。宝山ホール森山館長もお客様にご迷惑かけてはいけないと、雨に濡れた全てのイスを拭きました。小雨のなかでのコンサートになりましたが、竹とうろうとかがり火がいざなう、和と洋の音色が、日本風情漂う庭園に響き、観客を魅了しました。



(撮影・記事 広報ボランティア 四十住孝行)

12月27日(土)昼夜2回公演

かごしま子どもミュージカル「この花咲くや姫」

～ 稽古風景 ～

公演に向けて稽古も佳境、出演するこどもたちの舞台に対する思い、その熱い情熱を取材しました。

薩摩の神々の稽古

演出の先生から、演技ではなく気持ちが欲しい、どんな場所でどんな雰囲気なのか、台詞のない場面では自分で考えなくてはならない。そして剣の構えから槍の使い方まで厳しい指導が続きます。



自然を守る『薩摩の草の神』ミント役の、八木詩穂香さん(小6)は、「学校でも草花に語りかけたり、花壇の手入れをするようになりました。」と この役を通して自分が成長していると話してくれました。

薩摩のカゼツナミ役の、岩澤剣司さんは(小6)は、
「4年生から宝山ホールのワークショップで学んだことの最後の思い出になるようにと公募に応じました。声が小さいと指摘を受けましたので、自宅と加治木から通う車の中で、腹筋を使って大きな声を出し、付き添ってくれる母と一緒に練習しています」次も企画があれば必ずチャレンジしたいと、力強く語ってくれま



した。

アブラ島の稽古

アブラ島は、油を守り油中心の生活をしています。



ドリーム島の稽古

ドリーム島は、宝くじが当たることばかりを願い、パラダイスで夢だけを見て人生をおくっている。



シゴト島の稽古

シゴト島は、一分一秒の狂いも許さず規則通り働いています。



シゴト島のリーダーでシステム役の田畑佑樹さん(小4)は、「新しい自分を見つけるために、今回の公募に参加しました。舞台では、最後まで息切れしないで歌う、全員の顔を見ながら話す、踊りを大きく見せる等を心がけて、稽古に取り組んでいます」

アマテラスを中心に高天原

高天原を支配する神アマテラスは、荒ぶる神を鎮めるためと、薩摩の国に平和と調和、愛と優しさの尊さ、そして光あふれる国創りのために、孫のニニギと知恵の神オモイカネ、力の神タチカラオ、踊りの神ウズメを地上に派遣します。



クライマックス「桜島」のふり稽古



姉妹で「桜の精」役の中山裕紀子さん(小3)と明妃菜(小2)さんは、仲よし姉妹でお風呂の中でいつも一緒に歌の練習をしています。



稽古のあと、中学生だけで、今日の反省ミーティングを自主的に行い、問題点の解決はその日のうちにやっていると、力強く語ってくれたのは、サクヤの従者「モミジ」



役のドラトヴィニスキ茉莉花さん(中1・写真右)と「薩摩の炎の神ルージュ」役の大前弥理さん(中1・写真左)です。

薩摩の神々の長「オオヤマツミ」役の山口愛輝さん(中1年)は、今回のチームリーダーで稽古の終わりには締め挨拶をします。

「チーム全体のリーダーとして、まとめるのがむずかしい、サクヤ姫が従者とともに、父神の役に立とうと島々に行きます。その物語が感動する内容になっています、ぜひミュージカルを見に来てください」と話す姿はリーダーそのものでした。



観劇へのおさそい

島々の人びとが、サクヤ姫の勇気に心を動かされ、平和・愛・薩摩の国鹿児島を誇りに思う姿が描かれます。公募で集まった小中学生が一生懸命演じる姿を是非ご覧ください。もしかしたら皆さんのお友達が舞台上で元気に踊り、歌っているかも。

(撮影・記事 広報ボランティア 四十住孝行)

宝山プレゼンツ グレン・ミラーオーケストラ

12月3日(水)

チケットが完売し、満席のファンでホールはいっぱいになり、時代を超えて生きる“永遠のグレンミラーサウンド”に、酔いしれた2時間でした。

お客様にインタビューしました。

大西隆先生に引率された、ジャズバンド「リトルチェリーズ玉江2008」。24名で構成されキャプテンの松山夏樹さん(6年)は、「仲が良くてまとまりのあるバンドで、グレンミラーの曲を演奏することが多く、今日は生の演奏が聴けて最高です」と笑顔で話してくれました。



渡辺卓さん(鹿児島市西田町)

「クラシック・ジャズが大好きでコンサートにはよく出掛けます。以前とは若干演奏スタイルが変わったようですが、プラスのハギレよさ、そして魅力は迫力ある耳をつんざくようなプラスのセクションですね、最高に良かった」と大満足の様子でした。

(撮影・記事 広報ボランティア 四十住孝行)

公演ボランティアスタッフに聞きました。

ドア管理担当 紺屋武之さん

公演を手伝う喜びを感じています。お客様は期待をもって来られるので、それに応えられるように努力しようと思います。

場内整理担当 田中さん

初めての参加です。満席に驚きましたが、車椅子のお客様を安全にご案内することができました。立見席のお客様も演奏に熱中されており、2時間立ちっぱなしと心配しましたが、何事もなくよかったです。お客様と触れ合うことができ、これからもボランティアを頑張ります。 (取材 広報ボランティア 南千代子)

宝山ホール広報ボランティア通信誌「語りもんそ」編集部

〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール

TEL 099-223-4221 FAX 099-223-2503